

表紙, 目次, 抄録, 雑報, 通信

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38314

大正二年六月一日發行

十全會雜誌

卷八十第
號六第
(號九十八第)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌(第十卷第六號)目次

○原著及實驗

●「パントボン」ノ治療的應用。

那谷 與一

●健康尿及ビ病的尿中ノ「フォルモール」測定法ニヨル「アミノ」酸窒素ニ就テ。

吉光寺 錫
清水 憲
策 共述

○抄 錄

●移植及腹膜移植。

四年級 鶴來 政雄

○校內雜報

●高峰博士講演。●醫科四年最終級會。●三年級々々會。●金澤醫學專門學校基督教青年會復興。●基督教青年會第一回修養例會。●解剖遺體墓地改修轉式。●第一回金澤病院醫事集談會演說綱要。

○通 信

●森田齋次氏通信。●堀井京治氏通信。●福田美明氏通信。●關承五氏通信。●十全會東京支部第六回例會略報。

○叙任及辭令

●宮内省。●金澤醫學專門學校。●石川縣。

○人 事

●須藤教授の略歴。●轉居會員。●居所不明會員。

○會 告

●校外特別會員會費納付調書。

孤 録

●移植及腹膜移植

四年級 鶴來政雄

吾人ハ日常外科の手術ノ爲メニ組織ノ欠損ヲ來ス場合ハ屢々見ル事ニシテ其儘放置セバ畸形ヲ殘スノミナラズ後障礙ヲモ來ス可シ、又外傷ノ爲メニモ組織欠損ヲ招ク事ハ又ヨク實驗スル所ナリカ、ル際ニ當リ外科醫タルモノ如何ナル手段ヲ講ス可キヤ只其レ移植術ノ外又他アラサルナリ

以下少シク參照セルモノヲ略述シ最後ニ Kolazek 氏ガチウビンゲン外科教室ニ於テ實驗セル腹膜ノ移植ニ就キ一言セントス
移植ニ初メテ成效セルハ Ravenin (一八六九)ニシテ氏ハ上皮ノ移植ヲ試ミタリ是レヨリシテ學者ノ研究スルモノ續出スルニ至リ十九世紀ニ於ケル發達ハ實ニ次ノ如シ

移植セル組織	實驗者
粘 膜	Ozerny
腱	Mista
軟 骨	Ollier
骨	Barth

骨 膜

Axhausen

カノ有名ナルチールシユ、クラウゼノ移植法モ亦此ノ間ノ產物ナク近世ニ至リテハ Lexerハ關節ヲ Ozerny, Axenfeld, Rehnハ脂肪組織ヲ Kirschnerハ筋膜ヲ移植シテ成效スルニ至レリ移植界ニ於ケル近來ノ一偉觀ハ實ニカノ血管移植ナランカ從來管外科ノ發達ハ甚ダ遅々タルモノナリシガ一八八二 Ozerny ガ靜脈ノ Seitenigaturニ成效セシ以來面目始メテ一新シ一八九二 Dylantハ動脈ノ Seitenigaturニ成效シ更ニ一九〇三ニハ「カール」氏ハ輪狀縫合ヲ臨床的ニ應用シ遂ニ動脈移植カ Hoyer 氏ニヨリテ成效サル、ニ至リヌ血管外科ノ進歩殊血管移植ガ手術ニ幾何ノ進歩ヲ促カセシカハ今茲ニ愚論ヲ述ブルノ要ナカラシ

以上略述セシ如ク移植界ノ進歩ハ實ニ著シキモノナリ從ツテ趣味アル業籍ハ殆ト間斷ナク吾人ノ机上ニツマル、ナリ茲ニ只最モ趣味深ク感セシ最進ノ一例ヲ述ブルニ止メント欲ス其ハ Macrot 氏ノ報告ニシテ角膜片ヲ移植セルナリ氏ノ「アルバイト」ハ臨床的及動物試驗ノ二アリ動物試驗ニ攝氏五—八度ノモトニ同種動物血清中ニ眼球ヲ保存セリ而シテ十二—十四日時ニハ二十五日間モヨク生活力ヲ保持シ得テ角膜ハ其ノ緊張力ヲ保テ透明性ヲ有シ且患電氣ヲ以テ刺戟セルニ腫孔ハ反應ヲ現ハシテ擴張セリ
カクノ如クシテ保存セル眼球ヨリ角膜ヲ 5×6 mmニ切除シ試驗動物ノ人工的ニ造レル角膜欠損部ニ移植セリ但シコノ際角膜欠損部ハテスチエメツト氏膜ヲ殘セリ

二十四時間後ニハ既ニ移植片ノ周圍縁ニハ上皮新生シ始メ (Fluorescein-probe) ナ以テ證明シ得タリト云フ)二月後ニハ全ク透明ニナリ組織學的檢

查ニ於テモ移植野ト何等ノ差別ナカリシト云フ

臨床的實驗ニ移植材料ハ著者ガ實驗ヲ試ミシ一週間前「グラウココム」ノ爲メ摘出セル眼球角膜ニシテ此ノ眼球チ人血清中(アツセルマン陰性)ニ保存セリ患者ハ十四歳ノ子供ニシテ一年前ニ火傷ノ爲メ一眼角膜著ク混濁シ失明ニ陥レルモノニシテ

著者ハ先ツコノ角膜中央ニ於テ4x5mm切除シ先キノ保存セル眼球ヨリ同様ノ大サノ片ヲ切除シテ移植セリ一年後ノ觀察ニヨレバ移植部ハ透明ニシテ硝子窓ノ如クニ見エシト云フ而シテ視力ヲ驗スルニ該眼ノミチヲ以テハ大形ノ文字ハヨク見得ント云フヲ以テ見レハ先ツ異常ノ成効ト云ハサル可カラズ

移植法ニ三種アリ

一、Autotransplantationニ患者ノ組織ヲ以テ移植スルモノナリ

1) Homotransplantationニ同種動物ヨリ移植スルモノナリ同種異体移植トモ稱ス可キモノナリ

2) Heterotransplantationニ異種動物ノ組織ヲ用フルナリ即異種異体移植トモ稱スヘキモノ

以上ノ三種中最モシバシバ用ヒラル、ハ(一)次キチ(二)トシ(三)ハ成効セサル事多シ

移植ニ就キ注意ス可キハ次ノ諸点ニシテ(三)ノ失敗ニ歸スルコト多キモ亦是等ノ關係ニ因スルナリ即チ

一、年齢ノ關係ニ若年者ヨリ又ハ若年者ヘノ移植ハ老年者ノ同シ場合ニ比シテ成績宜シ故ニ移植材料ガ若クシテ若キ動物ニ移植スル時ハ失敗スル

コト少シ

二、血族ノ關係ニ血族關係アルモノ、間ノ移植ハ然ラサルモノトノ間ニ於ケルモノニ比シテ効ヲ奏スル事多シ

三、種族ノ關係ニ「フランクフルト」種ノ鼠ノ肉腫ヲ移植スルニ「ハンブルク」種ニナセル時ハ「デンマルク」種ニ移植スルヨリモ成効スルコトハ一般ニ認ムル處ニシテコレニヨレバ種族間ノ關係アル事確カナリ

然ルニ「シルシユ」氏ガ實驗セル如ク黒奴ノ皮膚ニ白人ノ皮膚ヲ移植スル時ハ失敗セルモ白人皮膚ニ黒奴ノ皮膚ヲ移植スル時ハ成効スルト云フハ如何ナル關係ニヨルモノナランカ

四、特種營養關係ニ「シェーネ」氏ハ異種異体移植ノ失敗スルコト多キハ異体蛋白ノ同化作用ノ困難ナル結果ナラント云ヘリ

五、コノ外不成効ヲ來ス原因ニツキテハ移植組織ニ對スル被移植体ノ中毒作用ニ歸スルハヨク續發的中毒トスルモノアリ免疫性又ハ過敏性反應トスル人アリ

六、移植材料選擇法ニ云フマテモナク新鮮ナル材料ヲ用フルチ理想トスト雖モ常ニ新鮮ナル材料ヲ得カタキ事アリカ、ル時ニハ豫メ保存セルモノヲ用フコレニ二種アリ全ク死滅セル組織トシテ保存セルモノ及ビ生活ヲ持續セルマ、ニ保存セルモノコレナリ

何レノ場合ニ於テモ一定ノ保存液ヲ要ス
前者ノ目的ニハ多ク用ヒラル、ハ「Formette」氏法ナリ即防腐的ニ切除セル組織ヲ硝子板上ニ緊張シ四十八時間五十二「プロ」ノ「フォルマリン」液中ニ浸シ二十四時間流水ニテ洗滌シ二十分間煮沸シ九十五「プロ」ノ「ア

ルコホール」ヲ充セル殺菌セル容器中ニ貯フカクシテ用ニ臨ミテ凡ソ一時間前食鹽水ニテ洗滌シテ用フ組織ヲ *Ueberleben* セシメツ、保存スル目的ニ用フル液ハ次ノ要件ヲ具備スルヲ要ス即該組織片ヲシテ元ノ「メッシュ」ト同一ノ状態ニアル様ニスルヲ要スコレニハ保存液カ血液ト *Isotonisch* ニシテ血球溶解現象ヲ生セサル様ニス即 *Osmotischer Druck* ガ血液ト同一ノモノナラサル可カラズコノ要件ニ對シ最も適當セルハ該動物血清ナリサレモカノ新鮮ナル組織ヲ得カタキコト多キト同様ニ又得カタキコトアリ茲ニ於テ人工ノ代用液トシテ生理的食鹽水ヲ用ヒシガコハ決シテ前ノ要件ニ叶フモノニ非ズ只血中ノ水分食鹽ニ對シテノ *Osmotischer Druck* 同シキニ過キス依テ近來ハ一般ニ下ノ二液用ヒラレツ、アリ

Ringersche Lösung Aq. dest. 1000.0 NaCl 9—10

KCl 0.2 CaCl₂ 0.2 NaHCO₃ 0.1

Leucke'sche Lösung Ringer'sch. + Trauben Zucker 1.0

○一度ノ濕潤セル水室中ニコロ等ノ液ヲ以テ保存ス

腹膜移植ノ大略ヲ左ニ附記セン

文籍ヲ閱スルニコツヘル氏ハ硬腦膜軟腦膜間ノ癒着ヲ治シテ再發ヲ防ク爲メニ網膜ヲ移植シベレツオフスキー氏ハ同一ノ目的ニ陰囊水腫患者ヨリ莢膜ヲトリテ用ヒタリコスチック及コスリンクノ二氏ハ「ヘルニヤ」囊ヲ同一ノ目的ニ應用セリ *Voelker* 氏ハ頭蓋骨折ニ硬腦膜ノ斷裂ヲ催發シ腦脫ヲ生セルモノヲ治センカ爲メニ「ヘルニヤ」囊片ヲ硬腦膜斷裂部ニ移植セリコレヲ以テ見レバ今茲ニ報告セントスルモノハ全ク珍奇ナル創意ニ非サルナ

リ然レモ著者ノ實驗ハ腹膜移植カ臨床上應用ス可キモノナルコトヲ最も明確ニ證明セルモノナラント思ハル、ナリ

氏ノ臨床的方面ノ實驗ハ十一例ニシテ皆「ヘルニヤ」囊ヲ利用セリ即既往症

ニ於テモ他覺的診査(殊ニツツセルマン反應)ニ於テモ健康ナルモノ、「ヘルニヤ」ヲ摘出シ直ニ一方ノ患者ニ移植セリ今茲ニ其ノ詳細ヲ述ブルノ必要ヲ見サルヲ以テ單ニ移植ノ部位ヲ記スルニ止メン

一、手伸筋斷裂縫合部カ周圍ト癒着スルヲ防ク爲メニ其ノ周圍ニ *musculen* セル一例

二、右下腿脛骨螺旋骨折ノ爲メ折端カ皮下組織ト癒着セルヲ創離シコノ部ニ生セル骨膜ノ欠損部ニ移植セル一例

三、兩側鼠蹊「ヘルニヤ」ヲ有セル患者アリ右側ノ「ヘルニヤ」ニハ尙ホ網膜カ陷入癒着セリ依テ網膜ノ癒着ヲ創離切除シコノ斷端ヲ *Peritonealisieren* スル爲メ患者ノ「ヘルニヤ」囊ヲ利用移植セリ

四、右肘關節強直ノ手術ニ關節端ニ *Interposition* セル一例

五、外傷性骨端離開ニヨル左股關節強直ノ手術ニ前者ト同様ノ目的ニ用ヒシ一例

六、骨髓炎後ノ股關節骨性強直ニモ同様ニ利用セル一例

七、硬腦膜欠損部ニ移植セル四例アリ中一ハ腦腫瘍手術ニヨリ生セル欠損部三例ハ外傷性「エヒレプシー」手術ニヨリ生セル欠損部ナリ

以上ノ中(二)ノ外ハ皆 *Homotransplantation* ナリ何レモ皆第一期癒合ニヨリ治シ只外傷性「エヒレプシー」ノ一例ガ再發セル外ハ皆成功セリ

動物試驗

第一回試験ニ試験數二十二頭ノ犬、移植法「ホモ」ニ六、「ヘテロ」ニ「アウト」ニ四移植材料新鮮ナル材料四(中「アウト」ハ三)死滅組織ニロツケ氏液ニ保存セルモノ一四リンゲル氏液保存セルモノ二

何レハ Peritonealisierung ナリ中体壁腹膜ニ、一七膀胱ニ、一胃壁ニ二小腸壁ニ、二例

第二回試験ニ試験數九頭ノ犬、移植法皆「ホモ」ナリ

移植材料ハ皆ロツケ氏液ニ保存セルモノ、移植部ハ硬腦膜ニ四例關節囊ニ

五例

動物試験ノ結果ハ次ノ如シ

一、第一回ノモノハ多ク「ネガチーブ」ニ終リ癒着ヲ起セリ恐ク「アセプチシユ」ニ治セサリシ爲メナラント云ヘリ

二、硬腦膜ニ移植セルモノハ良果ヲ得タリ

三、關節囊ニ移植セルモノハ最モ成效シタリ

四、一―二四日間ロツケ氏液リンゲル氏液ニ保存セル組織モ治癒機轉ニハ

何等ノ影響ハ來サドリキ

五、鏡驗上炎症機轉ヲ發見セス但シ「ヘテロ」ハ「ネクローゼ」ニ陥リシモノアリ

以上ノ實驗ニヨリテ次ノ如キ結論ヲ以テ著者ハ本法ノ推賞ス可キ價値アルコトヲ説ケリ

一、内臓外科ニ於テ Peritonealisierung 及ヒ Wandverstärkung ニ用ヒ得可シ即腹膜ノ欠損部ヲ補ヒ又内臓手術ニ當リ其ノ縫合部ヲ更ニ強固ニスル爲メ腹膜(實地ニハ殊ニ)ヘルニヤ「囊」ヲ用フ可シ(ヲ被フナリ)

盲腸又ハ上行結腸切除ノ爲メ生セル体壁腹膜欠損部ヲ補ヒ或ハ網膜切除ノ際其ノ斷端ヲ覆ヒ或ハ又肝部切除ニ當リ生スル内臓腹膜欠損部ニ移植シ又胃腸瘻造設術腸胸吻合術ニ當リ其ノ縫合部ヲ強固ニスル爲メ縫合部ヲ更ニ腹膜片ヲ以テ被フハ安全ナル法ナル可シ或ハ又ビルロト第二胃切除術ニ當リテ十二脂腸斷端ヲ被フコトモ更ニ安全ナル處置ナリ其ノ他胃腸膀胱肝脾等ノ斷裂ノ手術ニモ用ヒ得シ殊ニ手術殆ト無効ト認メラル、胃周圍炎ニモ本法ヲ應用セバ卓効ヲ奏シ得ン

二、肺外科心臓外科ニ於テモ應用シ得ヘバ心囊癒着ノ手術ニ先キノ胃周圍炎ト同様ニ用ヒ得可シ

三、硬腦膜ニ移植スルコトハ著者ハ其ノ實驗ニ於テ非常成效セルヲ以テ見レバ又腦外科ニ今後應用セラル可シ

四、腱神經縫合ニ當リ周圍組織ト癒着スルヲ防グ爲メニ「ヘルニヤ」囊ノ如キヲ應用シテ圍包セハコノ恐レナカラシ

五、關節強直ノ手術ニ應用ス可シ

六、血管縫合ニ當リテモ(四)ト同様ニ用フ

七、四肢切斷術ニ於テモ斷端ト皮膚ト癒着スルヲ防グ爲メ移植ス可シ



校内雜報

● 高峰博士講演 (五月二日)

五月雨の若葉に濕める初の二日、先に「タカシヤスターゼ」「アドレナリン」の發見に依りて知られたる我學界の偉人高峰博士の此度展墓の歸省を機とし、乞ふて一場の講演を聴く、午後一時半一同大講堂に參集、校長の紹介に次で博士徐ろに登壇直ちに講演に入る、曰く

往年前後二回の歸省に際しては都度「シアスターゼ」「アドレナリン」を掲げて諸君に見ゆる所ありしも今度は然る如き新發見の事實を齎らさず誠に慙愧に不堪從而格段なる講演の資料を有せずと雖も今回歸朝の目的は試験に關する國民的研究所の設立にあり、されば暫らく之れに就きて諸君に説く處あらんとすさて研究事業の必要を説き進歩には研究を要す研究は進歩の要須要件なり醫學亦固より、然り凡そ我國現時の文明は皆之れ醫學に依れるものにして醫學はやがて當世文明の日本に於ける紹介者に外ならずさて維新前後に於ける新學の輸入に論及し氏自ら當時藩費留學生として長崎に遊びし昔に返り當時泰西の學は皆醫學と醫術とに伴ひて入來せるものにして其の始め先づ醫學よりしたりし理由に就きて説かるらく、當時は和蘭に内亂あり爲めに一部政客の本國にあきたらず脱して我國に移住し來れる者多く出島に居を構へたりしを以て此れに名醫の隨從せるあり此の時に當つて我國の志士又長崎に集るもの漸やく多く斯くて直接人民に當世文明を熟知せしめんには先づ醫的方面よりするに如かじとし一は又實際上の見地よ

りして靈妙なる治病法の効驗に浴せしめんが爲の二大理由よりして比較的短時日の中に蘭學を基礎せし醫學は我國に布及するに至れり、されば醫學は凡て新學の先驅をなし語學を知らんには先づ醫學を、醫學を學ばんには先づ醫塾に入らざる不可る状態にありしとて一例を嚴父に取り斯くて世界的文明の接觸は實に獨り醫學に依りて成されたり、されば當時の新進政治家にありては皆多少なり共醫學乃至醫師との密接關係を有したるもの多かりしとて文明と語學、語學と醫學との連鎖を語り、次で我國醫學の發達は今や均しく世界の認承する處となれりとて殊に外科の功妙なる一は又一般習慣性に因するもの多大なるものあるを信ずとて過般獨乙の某外科大家のなしたりし評言なりとて傳へて曰るらく現今外科の進歩につき建築物に就きては米國に功妙なる手術に至りては日本に之れを見るべしとありしとて其の實證を擧げ續いて醫學上世界的の業績を擧げたりし邦人及び更に近時に於ける亞米利加の進歩に就きて語り實に自ら驚嘆に値するもあり而かも各方面等しく強大なる速度を以て其の進行を續けつゝあり必ずや遠からざる將來に於て世界文明の覇者たるべきを疑はずとて彼の「ロツクフェラー・インスチテュート」の業績を引きカロール氏の「ノーベル賞金、在全所なる我野口氏の梅毒に於ける業績其他を擧げ、再轉「サルバルサン」の泰氏に及び以て漸時吾人の世界に誇るべきものあるに至れり如斯にして時と必要の機興へらるゝあらば吾國人にしも尙常に受動受實的ならずとて又優に自動發見乃至發明能力の存するあるを世界に向つて公示し得たり將來に於ける吾人が覺悟は實に此の一点にあり、今回我専門的立脚よりして工業に關する國家的研究所を企圖せる所以亦茲に存す、要は專念報國を基とする世界的發展にあり其の何れの方面たる固より論なきなり、彼の超ド級艦一隻の建造に要する數十萬金はやがて進水の當時より日一日と廢朽につれて無用となるに反し斯くの如き事業にありては累次發展有用の機に近くものなり須へからく這般の消息につきて一考を要すべきにあらずやと

擲掄一番、望らくば各個の専門を一にして其の「オリギナル」の研究に全力を注ぎ此の隆々たる世界の進運に伍して一步を後する事なき覺悟と努力とを要す諸君又勵めずして可ならん哉云々、二時を過くる頃開散、

吾人は敢て加へず希くは諸子の覺悟に俟たん哉、

終りに臨み多忙なる博士の寄せられたる御厚志に向つて謹而感謝の意を捧ぐ。(未艾生)

● 醫科四年最終級會 (五月十一日)

縁は淺き新樹の眺め、狂達天氣も今日のみは晴れてすがすがしく國旗のそよぎ、我校の創立紀念日を機に最終級會を金城一望瞰下の夢香山上天神に開く。

何時もは神妙の懐みも今日計りは御互の無禮講さらば當方も淡り碎けてザツクバランの亂れ書き、讀まん人見ん人は科を一切筆と御覽んじてゆめ癢な超し給ひそ、

何れを見ても芳ばしからぬ羅漢面の八十休、中に岩間に生ふる杉なづなも見むわかれ鈍さやりに鼻毛計りは漸うく隠れたる自惚れ氣のみは一さ角なる人々のきわだてる當世羅漢や凸羅漢、むくつけなるを天神様も如何に御覽じつらむ揃へば廻せと手拍子合せて午前十一時半田中君豫定の開會、此れより級長廻り一着は下平先生うららかな今日の晴と紀念日に級會芽出度し〜とつ國人の諺にも悪い天氣の後に善い天氣と云ふ事のあれば今日も又夫れかまで過去と將來に互る教訓、昔は樂の種つとめよや、二着松原先生河北海を見て常に思ひ慰はるゝは偉傑錢五が事共なりさて彼の勇圖を抱きて空しかりしを説き我校未だ海外發展の機運に乏し希くば起らん哉と、三着金子先生臍緒を切つて初めて面喰ひと川柳もごき「イギリメ」國の言葉に曰く High hat covers the empty head 願くば諸君！充實

〜以て社會の征伐者たれ、第四着石川先生登山忽ちにして聞く謠曲の聲、神氣爽然たるを覺わたりさて西行櫻に「荒名残り惜しの夜遊やなれしむべし〜」得がたきは時會の難きは友春宵一刻價千金花に清香月に影「夢は醒めにけりあらしも雪も散しくや花を踏んで同じく惜む少年の春の夜は明けにけりや翁さびて跡もなし」の句ありさて時さ友に及び、世路艱難風あり雨あり努力々々、此れにて一順を終り次而來會諸先生に移る、窓外何處よりか迷ひ來にげん老鷲の一聲……扱て腹が空く辨當未だし、

一席山崎先生住香の後の御茶漬にもさて吾少より神社佛閣に至る毎に禮するを習ひとす今日に於て尙然りさて壯時東海道の旅に及び都度三十六驛路〜の神佛に會するあらば〜と拜を捧げたりさて昔語りに敬神より得たる安神はやがて處世上の安神となる、磨けよ玉を神つ御國の國民は、次に佐々木先生御病体を煩しわざ〜の御來會、前途多望の諸子の我れに學ぶべきもの一つあり何ぞ？生來多病曰く何？皆あらず今日の勇氣之れなり今日の登山は滿身の鼓勇にあり喚氣せよ勇氣を勇氣は覇者の劍の夫れぞと、深謝必ずや報ひん哉、次に上田先生佐々木先生は予の登山を見て發せし勇氣なるを以て之れ假勇なり我れ不便の隻脚に倚つて險路を犯し來る之れ眞の勇乎然れ共勇は暫らく眞假を問はず、今日山路難歩泥濘を極めし處あり供に愛兒の來るあり未だ年少間々路傍の草を採つて以て路を調へ我れに便ならしむ知れ！彼等未だ世辭を解せず期せずして此の情に發せるを、之れ所謂眞情の發露たるを諸子人事の極致は深切にあり誠ならば神又之れを救く以て要は圓熟にあり至囑〜偏に健在なれと、先き程よりの千松羅漢少々不作法の次第ながら咽より兩手の迫りてあらもごかしや、俗に養はれたる生き羅漢は此段武士の高羊齒も參り兼ねるを幹事なだめて寫眞〜、さりと撮つたり日光照つて燦然と神々敷き光の添ひ玉へる中に天神宮を脊影として、舊庵に歸ればやれありついたり御辨當、共喰ひの筈飯さは歸命頂禮扱て有難の端現やなと食し召せば索々の音松を拂つて琵琶の

音、松江君那須與一、浦風に散る扇の行衛見渡せば夢か現の境より忽ちさめて虚空に花は降られぬ樂の音聞ゆ、之れなん松江龍兩君が「ヴァイオリン」尺八の合奏六段の曲、終れば嬾々の餘音に續き消ゆゆく城山の一曲田原君、露の身のいこひても行かん旅衣さて山崎君仕舞杜若地には宮田、村田兩先生に鶴來君並に斯く申す中村大天狗、はやしに上田先生の太鼓「然れ共世の中はこさす手引く手の足拍子奏で終れば返すや袖の羽衣ま全しく中西君、國土圓満首尾よく霞に紛れ入り玉ふ上々の出来、地は元來名人の揃ひ評判は沙汰の限りと思し召せ、次はまた入り代り何に變ふらん濱千鳥尺八江龍君、「ヴァイオリン」松野君天津御空の處女にたくへて春の曲しばし止めんすべもなく再び上田先生加茂の一調、地村田先生山崎、鶴來、兩君「めでたくぞ打納まつて未久きに園遊會となる其の實れでんや菓子のパクリ」に移り萬歳聲裡樂しかりし會を閉づ、敗殘のたでん串、坂路の堤上芋さしの儘立ち並びすまじかりし名殘を止めつゝ五時歸路に。……入學以來級會を開く茲に十有三回、一年に二、二年に二、三年に六、四年に三、此れにて芽出度級會の千秋樂苟も新芽に味的好季節孟宗淡竹真竹女竹矢竹寒竹取り／＼に生ひ出で、やがては如何なる藪をや成すらむ、風の渡りてうら／＼かに雀集ひて啼かん時や何時?!

さらば別れを水の行くに委せて藪修業、又逢ひ見ん末をぞ樂しまん哉一嗚呼起き臥し辛かりし地めぐりの、さらば友よ別れの後は月に冴へゆく笛もに、または雁に傳へん玉章の筆軸に、ならば事よせて變へじそ今日のうち集ひさらばいざ、

本日遠路御來會の諸先生は山崎、下平、佐々木、金子、村上、上田、宮田、石川、阿部、松原、藏光、土肥、浮田、佐々城、村田、川島、吉野諸氏なり謹而感謝を表す。(中村未艾)

● 三年級々會 (木津行一四月十九日)

街を去り今朝の愁の目にのこる
櫻の花の淡かりし色

櫻の花の褪せた色に淡い悲しみを覺けた我々は春の素顔のなつかしい郊外に憧憬せざるを得ない。わが醫科三年級の級會も其別れゆく春の袂を捕へて其横顔にクッスすべく木津の桃見さいふここに定まつた。

四月十九日、名殘なく空は晴れてゐる、金澤驛發八時四十分の小っげな汽車は吾々五十餘名の會員を搭せて走る。

田打つ人に畦の犬瓦やく煙 億 羅
花野盡くる鳥居枕木積めるあり 同

本津幡を過ぐる頃河北潟が見出した。
春の日はなれし村の一つ家の

白壁にてる湖にてる 柳 露
宇野氣驛で突然下車するこゝになつた宇野氣からすぐ松の林がついてゐる。足早い連中はツン／＼進んでゆく、雲雀の聲も何の感をも起さぬらしい。

轉りに人あらず、こゝら 太る松 億 羅
生垣の灌木の枝に結節が澤山ある、多幸なる「フラウ」を得んが爲め將たまた自分の願望の成就を祈る爲め里人が精神こめて結ぶのださいふ。

契る願に結ぶ木さうら／＼かへり見す 億 羅
松の木の間々に桃花が眞盛に咲いてゐる。

低き桃太りし松の間々に 柳 露
春も名殘さいひたげに咲く 億 羅

里餘續く桃林一行の殿りす 億 羅
先頭の連中が見えなくなつた、道の分岐点に立つて茫然してゐるこそ、

へ一人の里人が通りかゝつた。

春のひる輕う埃をあげてゆく

見知らぬ人にゆくてなご問ふ

其間に先生が「ジャッ」と落しものを——新陳代謝が亢進したと見ゆる。

松と桃の轉りを先生小使す

木津の小學校の少し手前から横山の方へ行つた者もある記者はのたり

／＼の春の海を見るべく海岸へ出た岸邊には老若男女が樂しげに今曳き上げた鯛を拾つてゐる、其近く砂上に坐して春の海の感觸を恣に味つた。

網の目ぬく鯛かほごを不漁とも

鳶に勝つ鳥天下を逐ふうらゝ

何となうほの紫のかのあたり

なつかしきかな春の海原

かゝる日は鷗よ汝もうれしきか

波のまに／＼輕う浮べる

自らの安げく終るわが生を

想ひぬ春の海に向へば

濱邊ゆく二人の海士のあらわなる

銅色肌に春の日ののてる

自然の偉大なる景色に「チャーム」せられて長い間瞑想に耽つてゐた、横山の方へ行つた連中も歸つてきた。

さきに自轉車に乗つてきた十餘名の一隊も此處に落ち合ふ、「ニッケル」の反射が心地よく感ぜられた。

遅れつきしか追ひ車うるゝ来るもあり

自轉車隊まづありて校歌風ひかる

がまた「ダイヤ」の空氣がなくなつて自轉車を引つ張りゆく不体裁つたらな

い。誰かいいふ「自轉車できた者は餘程のもの好き者かさまなければ漸く

誕生のすんだ連中だ、よく乗れる人さ少しも乗れない人とは皆汽車に搭つた」と。實際生ま乗りの連中もあつたらしい。

此處の海濱で小使が汗を流して運んだ菓子を分配せられた、通稱看護長

君はあたらなかつた云つてこぼしてゐた。

濱つたひに高松村までゆく。

語らひて歩む諸の足跡も

興あるものを波な消しそれ

語らひて歩む諸の足跡の

消ゆるを見てはまた歩みゆく

高松の小學校で辨當を食ふ、食後小一時間この校庭や後の小丘で遊んでゐた。

校長の粗朴學童に歸る雁

此處の童女童は嬉々として遊び戯れてゐる十人許集ふてゐる中に高度の斜視が二人、其他眼瞼縁炎らしい者も甚だ多く見受けられた。

午後一時一同歸途につく、松と桃とでさりかこむ間道を横山に出た、村

近き砂地の日表の畑には何を植へんさするにや。

囀掛けて打つ畑や竹の根延びある

柳露子等二十餘名横山驛或は字野氣驛から四時の汽車に搭る。健脚の士

はこゝから約一里を徒歩し靜かなる河北瀉を縦斷すべく結束した、勿論先

生も居られる。同勢三十二名。お伽話にでも出て来る様な河舟四隻を借り

うけてこれに分乗した。春の日は左岸の山々を照らし湖面は恰も銀の色と

反射する。車中の柳露子等此快を知るや知らずや。

初めて乗るもあり舟行を東風の瀉

一きり歌ひ笑ひ且つ叫んで五時四十分漸くにして洲崎に着いた。尙動

搖を覺ゆる身体を支へて校歌朗かに金澤の街に着いたのが將に午後七時。

買ひ忘れし歸る郊外鳴く蛙

億 羅

●金澤醫學專門學校基督教青年會復興

眞に生きたい求めたい、鳴り静まない私達心の響は、いつか相應する共鳴を得なければならぬ。お、つと觸るゝ君の胸、さゝやく音の懐しさよ。君聞かずや御旨囁く星の色、君見ずや遙なる主の國、永劫に消元やらぬ生の喜を抱いて語る道の友が出来たのである。濟生を讀ふるM.A.の章の上に血に光れる十字架の影鮮に、沈むた北國の街を輝したのである。眠れる獅子と誰れか云ふ。前途は定まつた、進まう進まう。豚となつて樂しまうか、「ソクラテス」となつて苦しまうか、皆あらず基督教となつて喜ばうではないか。

三月八日、濕つばい夜風に衣も心もしつさりなつて南町ヨハネ教會に集つた私達十餘人は、さめざない感謝と喜悅を以て、大橋牧師の説教を聽き談笑のうち左の條々を規約した。

金澤醫學專門學校基督教青年會規約

- 第一條 本會ヲ金澤醫學專門學校基督教青年會ト稱ス。
 - 第二條 本會ノ目的ハ基督教主義ヲ持シテ會員ノ品性ヲ陶冶スルニアリ
 - 第三條 本會々員ハ本校學生有志ノ士ヲ以テス。本校學生以外ニシテ本會ノ主旨ヲ賛スル士ヲ以テ賛助員トス。
 - 第四條 本會ハ毎月第三土曜日夜會員各自ノ宿所ニ於テ又一ヶ月一回本校内或ハ便宜各教會ニ於テ例會ヲ開クコト。
 - 第五條 本會ニ幹事ヲ置ク幹事ハ毎月抽籤ヲ以テコレヲ定メ人数ヲ二名トス内一名ノ幹事ハ次回ノ主幹事ニシテ當月ノ幹事ヲ補佐スルモノトス。
 - 第六條 本會々員ハ一ヶ月金五錢トス内金三錢ハ東京基督教青年會同盟本部へ送達シ内金二錢ハ本會ノ費用ニアツ。
- 以上

門を出づれば夜已にふけて道行く人もあらず、暗は寂しい街のなかに、十字架獨り雲を突いて、ゆくてはるかに輝いて居る。(崎山記)

●基督教青年會第一回修養例會 (五月十日)

山を見よ海を見よ、弱々しき春の色は去つて力に充ち満ちた常夏の戦き濃き緑の微動は、我等に何物かの暗示を與へるではないか。正義の旗章、平和の劔、進めと高打つ露戰の太鼓は、はてしなきまで鳴り響いて居る。五月十日午後六時半我等の第一回修養例會は石浦町日本基督教會に於て開れた。

初めに寛正通君は「靈の生涯」と題して、浦賀灣頭一發の砲聲に、三百年の長夜の夢を破られた邦人が、驚き急いで物質に走つた爲めに、あばれむべし精神的不具者となり時は移れど、精神的夢は醒めず良心の沈淪し行くかなしき覺め醒めよ、而して平和なる満足なる靈の生涯に入るべしと説かる。次に眞下信一郎君は「信仰」と題して、京鶴線の一鐵橋に於て、車窓より眺めたる自然の偉大なるに對する人工の微々たる事より説き起して、弱き我等に強き大なる力を與ふるものは、信仰に他ならずと述べる。次に鈴木外男君は「青年と品性」と題して、現時の青年の品性の一日も等閑に附すべからざることを、時めく人の頼み無き事、我等の進路は只基督を理想とし能はざるなき神を仰ぎ見る他無しと説かる。此時當教會牧師河合龜輔氏は「日本の基督教」なる題下に、初代基督者の奮闘の歴史より説き起して、現代基督の欠所を摘發し、我等の責任の益々大なるを述べらる。最後に、松原先生は「自制」なる題の下に、自制は修養に入る第一歩なることを、その御經驗より、博き御智識より、又昆虫、蛙、鳥、蟻、兎、人等の腦髓の比較解剖學上よりして、いと懇ろに御述べ下さつた。私達は先生によりて、何れだけの力を得たか知れないことは、先生に對して御禮の申し様がない。

池田君の閉會の辭があつて、楽しいうちに嚴かな會は閉ぢられた。當日會衆四十餘人、阿部生徒監や牧田氏の御出席下さつたことを感謝する。痛、い程冷い夜風は、聖者を仰ぐほつた若人の顔を刺した。(崎山生記)

●解剖遺體墓地改修移轉式 (五月二十五日)

過般山靜かに陰深かりし舊墓を轉じ新たに夢香山狐尾の地を相し鮮體諸靈之墓を修む、即ち五月二十五日午後三時本校職員生徒并に遺族有志一同參拜、薄奠を設け禮を具へ慎みて營を諸靈に告ぐ、式は讀經に次ぎ燒香に終り後一同更に寺堂に參し一場の法話を聽し四時散す。

新墓は山に依り壑に臨み肅然として俗を絶し、一望四方を瞰下し規模亦森嚴、墓邊の叢樹は翠綠深く永しなへに又英魂を慰むるに似て安らかなり。

(未艾生)

●第一回金澤病院醫事集談會演說綱要 (四月十七日)

白血病に於ける白血球破壊に就て

奥山 義盛

三十七歳農夫、幼時に於ける骨折全身震盪が原因となり十二指腸虫病性貧血の誘因となりたる如く想はる、著明慢性骨髄性白血病患者を示説し、X光線の白血球破壊作用に關する諸家の説を述べ、終に亞砒酸劑規那皮を服用する本患者につき屢尿中の全窒素及尿酸を定量し其結果尿酸排泄は敢て白血球數に比例せず健者と殆ど同様なれども時として休動食物等に關係なく發作的に窒素素に尿酸量の異常に増す、こあるを表示し其白血球破壊に歸すべきものなるを述ぶ。(自抄)

「アプリノール」の「トラホーム」に對する實驗

加藤 慶三

最近「トラホーム」新治療薬として「アプリノール」の報告あり該品は臺灣産

の雞球母又想思子より製出せる一種の刺戟素にして一定の稀釋液を点服すれば廿四時間内に反應炎症を起す此炎症は「トラホーム」組織を軟化分解して吸收せしむるに必要な反應なり而して廿四時間持長し次の廿四時間内に消退す此反應を數回反覆すれば輕症は二三回重症も十回以内にて全治せしむると云ふ予の實驗に於て中等症五例共十回反覆せしに其半部以上の吸收を見たるも全治せしむるを得ざりき。(自抄)

高安 右人

「トラホーム」の食鹽反應供覽
「トラホーム」の疑ある患者及び「トラホーム」が治癒したるや否や尙「トラホーム」顆粒が残留せるや否やを知るに甚だ困難なる場合に食鹽反應を見るときは一目瞭然となる即ち患者に豫め「コカイン」溶液を点眼して後眼瞼を翻轉して眼瞼結膜に食鹽を塗擦し後水を以て洗へば顆粒は著明にあらばる。(患者に付きて實地供覽せられたり)

鼠咬症に「サルグルサン」の注射實驗

佐崎 伊久

患者十九歳の婦人にして夜間睡眠中右上眼瞼家鼠に咬まれしも一兩日にして無障礙に治癒せり然るに二週間許後同部に變兆を來し且つ熱候ありしより診を乞ひたり。

右上眼瞼は治癒せし咬傷部を中心として腫脹、發赤(紫赤色)著しき滲潤を來して閉瞼すると能はず同側部並に鎖骨上窩の淋巴腺の腫脹右、前胸部、背部及同大腿の皮膚に於ける五厘錢銅貨大或は手掌大の紫赤色にして滲潤性の紅斑數個を自撃せり而して入院後体温は三十九度―四十度二分而し一般症狀は比較的明確にして苦悶を訴へ如斯狀態は四日間持續して突然降熱と共に各症狀著しく輕快せり一週間の間歇を以て前症狀を反覆せし一例に對し當初灰白軟膏塗擦沃度加里及砒素劑の内服を以てせしも其効を認めざりしに一回の「サルグルサン」(体重一キロに對し〇〇)の靜脈内注射に由て何等副作用を認めずして全治せし一例を實驗せり因に五ヶ月間經過せしも未だ再發なし。(自抄)

肩胛骨の急性化膿性骨髓炎に併發せる膿胸の一例 下 平 用 彩
演者は先づ膿胸發生の原因を概説したる後急性化膿性骨髓炎に本症を併發
することの多からざることを説き次で手術に由り該兩症の殆んど治癒に就
きたる十六歳の患者を示したるが此膿胸は同例の肩胛骨を侵したるの同一
なる黄金色葡萄球菌の傳染に基因する者なりしと云へり。(自抄)

本會に對する希望
下 平 用 彩
本會に對する希望として成可く多く出演するとを歡誘せられたり之れにつ
き好生館醫事研究會雜誌にある「ツマラヌ」を一讀せられ文中にある如く
「ツマラヌ」云ひて何も報告せざれば何時迄經ることも向上するとなく
又自分ば「ツマラヌ」と思ひても他人が聞き取て利益なる事もあれば如何なる
事にて此所に出演し一方には演説を練習する必要ありと説かれたり。

通 信

● 森田齋次氏通信

(三十一年卒業。東京慈惠醫專學校解剖學教授。十全會宛)

拜啓小生儀豫定の如く去四月一日獨乙を出發仕り途中 Brussels, Waterloo
London 等を見物仕り四月九日當英國ケンブリッヅ市に參り左記の所に住
居するところ相成申候此所には七月末頃まで滞在仕り其より Oxford, Edin-
burgh 巴里、羅馬、ネアバル等を視察して歸國したき心組に御座候過日伯

林にて先輩鈴木寛之助氏に久振にて面會仕候當ケンブリッヅは非常に寒く
本日朝來雪降り居候尙當大學には只今九條男が御在學の由に聞及び居候
其他には誰れも當地に見受け不申候先は轉居の御報知まで如此に御座候

大正二年四月十三日

Dr. S. Morita

by Mrs. Wesley

62 the Causeway

Cambridge, England.

森 田 齋 次

● 堀井京治氏通信

(四十二年卒業。タイチ燐燻會社醫。十全會宛)

(前略)會誌多大の興味を以て毎號拜見致居候母校の發展誠にうれしく存候
當地の様子は多少我日本國より異り居候土人等は南太平洋の天國なりと威
張り居候何れ委しくは後便に御通信可申上候只今郵船出帆間に御座候ま
ゝ無禮をも顧みず葉書にて失禮致候何れ後より更に御詫び申上ぐべく候
(下略)

大正二年四月十三日

タイチにて

堀 井 京 治

● 福田美明氏通信

(四十一年卒業。富山市神經病専門醫。十全會宛)

一、市會議員ト堀米次郎氏。
富山通信

文明の歩は駿々として停止する所なく、施政の事日に益々複雑に陥りつゝあり、昔時は議員など一言は所謂政事屋の手に一任して顧みるものもなき傾きなりき、然るに世運の開化につれ各方面特種の技能家を要求するに至りしは自然の勢ひにして施政の事亦以て例外ならんや茲に於てか各市各縣勉めて専門的頭腦者を網羅し完全なる施政を議せんとする誠に喜ぶべき現象に屬す、富山市近年漸く發展の機運に達せしが頃日富直線の開通なり頓に市政方針に影響し來るべき設備は市區改正、水道設備、下水の完成、傳染病豫防等衛生的施設は市の体面上目睫の間に迫り來りぬ此時に際し市會議員改選期の來りしは何等の好都合ぞ、富山醫師團の活動期は來れり、第一着の事業は市會の要路に醫師其者の位置を占むべきにあり、仍て醫師側の立候となり堀米次郎氏推されて堂々の旗幟を擧げ一方既成政事團体を基礎として安吉一雄氏現はれぬ同氏の選出は共に二級にして同級は十二名の定員なるに既に立候者二十有餘名の大多數に及び各自の運動は最も激烈を極め紛々として豫側し難く朝に當選を傳へて夕に危急を告ぐるの様、市中は爲に戦場の如き觀を呈せり、かゝる裡にも一絲亂るゝ事なく遂に市會議員の月桂冠は遂に堀米次郎氏安吉兩氏の頭上に落ちぬ是選舉民の開け來りし賜物と云ひ亦兩氏の德望の到す所ならずんば非ず殊に、堀氏は母校の出身病院に開業に非常の努力と發展を遂げられ醫師患家側の信用は勿論市民の德望高く切に前後異例の高票数を以て易々當選せられしは獨り氏の榮譽なるのみならず富山醫師團及母校の名譽と云ふべし、今後富山市施政上衛生的方面は勿論他の方面にも大に見るべきものあるべく願はくは自重大に公衆の爲に奮勵せられむ事を切望し合せて本會員諸君に告ぐる所以なり。

二、富山醫師會 去月廿五日富山公會堂に開催

一、決算及庶務報告

二、建議の件

三、北陸醫會寄附の件等を議し散會せり

三、十日醫會 去月十日、富山市開業醫中有爲少壯の醫師を以て組織せる同會を秋山亭に開催非常の盛會なりき同會は毎會一の欠席者なく意志の疎通羨むべきの會合として實に誇るべきものとす、殊に同會員の多數は母校の出身者なり。

四、富山協同醫會 去月開催、ドクトル田上清貞氏の「老成の學說」の講演あり盛會なりき。

五、衛生參考品展覽會 今秋共進會期を利用して衛生資料の展覽會を開催し同時に衛生大會及北陸醫會の開催あり大に一般人民の衛生思想を促すべき計劃なり。

六、北陸醫會と新潟縣 北陸の地、山川險惡交通不便にして同じく一堂に會し自他交互に親分を分つを得ざりしが今や富直線の開通となりて親不知子不知の險も風光を賞しつゝ來往し得るに到りしは實に文明の餘澤と云ふべきなり此機を利用して共進會の開催となり北陸醫會の開設地變更となり隣國新潟縣との連續となり茲に始めて北陸醫會の名を完ふするを得るに至りぬ新潟縣は爾來醫學の隆盛地從て名醫學者多く近く醫專校の完成に依りて益々其實を擧げたり此等の諸士來りて得意の學說を吐露せられむとす北陸醫會の前途誠に多幸なりと云ふべく同會の盛大今より期して見るべきなり。

五月三日 富山市鍛冶町十

福田 美 明

● 關 承五氏通信

(四十二年卒業。新潟醫專病院醫員。佐々木教授宛)

拜啓春陽花霞之候は乍申北國の寒さ未だに去り不申候を先生には如何被

相渡候や御伺ひ申上げ候小生儀以御蔭様無事勉勵まかり在り候間乍憚様御安心被下度候光陰は矢の如く走せ悲敷心地して温き師の下を離れ思出多き尾山の城下後に幾度か幾多の友と別を惜みし其停車場に吾も亦惜敷袂別を一聲の汽笛と共になせし其日昨日か今日と思へしに春は再び歸り既にして年の昔と相成り申候一年は只寂敷心地して過ぎ二年は偲んで寂さを感じ申居り候未だにうれしきにつけ悲敷につけ先づ思ひ出さるゝは金澤にて候さて二歳前の八月金澤を去り其八月より父母のすゝめにより此處新潟醫專病院に入り申候爾來懇篤なる師の示導同情ふかき先輩諸兄の教の下に寂敷内にも心安き練習を習け居り申候小生當地に來りし其當時より早速先生に當方の模様的事共御報知申上げ度思ひ居り候へしも口も筆も巧可ぬ不幸者の事さて其まゝ此度はくゞと打過ごしふん今日に至り申候處先月の十全會雜誌に楠田(當院第一外科助手)の詳細の御通信も有之候故既に先生にも御一讀の御事と存じ候まゝ夫れを幸此處に駄筆を止め只單に小生一個人としての所感を慕はしき師の君に御知らせ可申候。

其極端と極端とを除き去れば何人にも凡て其短所と長短とを有するが様また學校、病院等にも各々其短所、長所を有するは到底免かれ得ざる所と存じ候今假りに母校と當校との設備を比せんに彼に既に完成したるもの此は今尙其途中にあり且つ彼れば甚だしく古參にして此は甚だしく新參なり故に元より同色の眼を以てこれを比す可きに非らず只其將來を比し且つ其同縣人たるの故を以て聊かこれに左祖せば即ち彼の稍々劣れるかの感なくんば能はず。學生を導く教授如何に就ては固よりこれを比す可きものに非らず而も不肖はこれを批評するの才なし眼なし、漠然たる余かこれに對する見識は亦其設備に對する余か思に彷彿たり但し其學生に對する示導教授の巧拙は其經驗、熟練の如何を知らば亦自ら之を悟り得可きものと存じ候學生其者の如何に至つては更に困難にして比較すること得ず只學校の何れに有りても其初回の卒業生が熱心にして且つ優等なるは其通有性なるが

如く小生は思惟致し居り候。小生共助手如何?幸福なり何とされば其出する所を異にするに従ひ各々其特長を異にし各助手は互に其特長を交換し得るか故に御座候されど和氣靄々たる一室に同窓互に相連り師たる父兄を仰き胸襟を開いて互に教を受け相語りし研究生時代、醫員時代を回顧せば万感交々至り嘲寂莫、冷淡の感禁する能はざる次第に御座候數万言の駄辯煎じつむれば長所短所は万物の共に免れざる處宜敷吾人は自らこれを悟らざる可らず何處に至るをも生れた處と生みの親は矢張り慕しく戀敷候、本院にてもいよゝゝ來る二十一日より小兒科(岩川博士)診察相始まり池原、澤田の小兒科は消滅し單に内科のみと成る次第にて御座候

三月十八日

新潟市學校町二番丁岡本小路星野方

關 承 五

●十全會東京支部第六回例會略報

拜啓時下新緑の候に御座候處各位益御清稷慶賀の至りに奉存候、却説去る三日上野常盤花壇に於て十全會東京支部第六回例會を開催仕候、來會者約三十名軍醫あり、開業醫あり、公私病院奉職者あり、なかゝの盛會にて有之候、殊に御上京中の高安校長はじめ土肥、島田の兩教授も御出席下さり錦上更に花を添へ申候、斯くて櫻雲たなびく常盤花壇土美妓舞ひ、玉盃飛び、互に胸襟をひらきて各自十二分の歡を盡し申候

四月二十九日

幹事 坂野長三郎
森 久米次郎



叙任及辭令

●宮内省

五月十日
叙從七位

正八位勳七等 山本兵三郎

●金澤醫學專門學校

四月十九日

金澤醫學專門學校醫學士 上島耕治

醫化學副手ヲ囑託ス

月手當金拾五圓給與

四月二十一日

依願囑託ヲ解ク

細菌學衛生學副手囑託 加藤光澄

四月三十日

金澤醫學專門學校醫學士 伊藤又吉

産科學婦人科學副手ヲ囑託ス

月手當金貳圓給與

五月六日

依願囑託ヲ解ク

内科學副手囑託 山崎重治

金澤醫學專門學校醫學士 西野宗之

内科學副手ヲ囑託ス
月手當金貳圓給與

●石川縣

四月二十八日附

十一級俸ニ昇給

四月三十日

醫員拜命 十二級俸給與
内科一部勤務

醫員拜命 十二級俸給與
婦人科勤務

五月七日

醫員拜命

十二級俸給與
外科一部勤務

内科一部 醫員 西野宗之(豐)

小池才一(大元)

富田豐咲(大元)

河村二郎(大元)

入 事

●須藤教授の畧歴

履 歴 書

山形縣平民

醫學博士 須藤 憲 三

明治五年一月十日生

一明治二十二年四月東京神田錦町三丁目東京醫學院ニ入り同廿五年五月マ
テ醫學修業ス

一同廿三年五月内務省醫術開業前期試験ニ及第シ同廿五年四月同後期試験ニ及第ス

一同廿六年四月内務省醫術開業免狀ヲ受ク

一同年九月醫科大學生理學選科ニ入學シ廿七年四月迄修業ス

一同廿七年六月二日任醫科大學助手生理學教室勤務

一同廿二年十月三日醫術開業試験委員被仰付

一同三十六年三月三日東京帝國大學醫科大學講師ヲ囑託ス

一同三十八年一月廿四日任東京帝國大學醫科大學助教授叙高等官七等

一同年三月十日叙從七位

一同四十年十一月七日陞叙高等官六等

一同四十一年二月廿一日叙正七位

一同四十二年一月廿五日陞叙高等官五等

一同年三月三十日叙從六位

一同四十二年十月四日ドレステン萬國衛生博覽會文部省出品準備委員ヲ囑託ス

一同四十四年三月一日論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ東京大學醫科大學教授會ニ於テ其大學院ニ入り定期ノ試験ヲ得タルモノト同等以上ノ學力アリト認めタリ仍テ明治三十一年勅令第三百四十四號學位令第二條ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク

一明治四十五年一月十三日醫化學研究ノ爲メ滿二箇年間獨乙ニ留學ヲ命ス
一同年四月二十日叙正六位
一大正元年十二月二日任金澤醫學專門學校教授叙高等官四等

●轉居會員

近衛歩兵第三聯隊附一等軍醫

清水秀夫(三五)

千葉縣千葉郡賀村陸軍歩兵學校附滿洲鐵嶺歩兵第五十聯隊第三大隊

熊本輜重兵第六大隊附一等軍醫

東京近衛歩兵第三聯隊附一等軍醫

東京近衛歩兵第四聯隊附一等軍醫

紀州深山重砲兵第三聯隊附一等軍醫

豐橋歩兵第六十聯隊附一等軍醫

富山縣東礪波郡油田村大字千代村

臺灣基隆衛戍病院附二等軍醫

大阪第四師團軍醫部々員二等軍醫

東京第二衛戍病院附二等軍醫

京都市黑門通一條一筋上ル

朝鮮全羅北道南原守備隊軍醫

鹿兒島歩兵第四十五聯隊附軍醫

大阪市北區空町一丁目一八ノ一

大阪市西區九條町茨住吉神社南門西

靜岡市二番町四十二番地

島根縣鏡川郡杵築村

小倉第十二師團軍醫部内

朝鮮江原道原州守備隊附軍醫

朝鮮慶尙南道居昌守備隊第一中隊附

東京市深川區材木町十三番地

德島縣河波郡久千田村

東京陸軍醫學校

廣島縣安藝郡畑賀村

東京神田區駿河臺袋町九、貴臨館

(名越)

- 大田長作(三)
- 山本幹雄(三)
- 後藤義賢(全)
- 窪美一久(三)
- 並河權六(全)
- 水上俊三(全)
- 松井源長(全)
- 西尾貫一(三)
- 岡田久多(三)
- 太田勘市(全)
- 朝日昊(全)
- 内田貞春(全)
- 中谷内善雅(三)
- 奥山正雄(全)
- 岡勝重(全)
- 岩井尊宗(全)
- 並河正雄(全)
- 鈴木啓一(全)
- 田中三彌(全)
- 平野郷治郎(三)
- 北村一清(全)
- 白石福三郎(三)
- 黒田孝夫(全)
- 村上盛窄(全)
- 重田稔(全)
- 的場周藏(三)

大阪府西成郡傳法町北四丁目一二六
 廣島市大手町四ノ四二福井方
 東京大久保百人町一二二

●居所不明會員

御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下さり度御願申上候
 但し姓名の上に◎印あるは最近に不明となりたる會員諸君なり

舊住所

東京市芝養生園
 大阪市東區京橋三丁目
 大阪府立高等醫學校婦人科教室
 長野縣上水内郡長野町
 石川縣能美郡小松町字京町
 朝鮮京城旭町二丁目
 長野縣小縣郡丸子村
 朝鮮大邱同仁病院
 豫備工兵第九大隊
 兵庫縣神戸病院
 門司市西川端町二丁目
 獨乙國ミューン市
 高知縣高岡郡須崎古市町
 近衛野砲兵聯隊
 新潟縣中頸城郡新井町
 兵庫縣柏原病院
 廣島縣高田郡吉田町

石川 元良 (全)
 平泉 泰藏 (全)
 正木 芳隆 (全)

園崎 純次郎 (三)
 森岡 惣太郎 (三)

◎ 小山田 基 (三)

◎ 須田 嘉三郎 (全)

松村 四郎 (三)

富久 尾溪 (全)

下村 義二郎 (全)

西尾 岱抱 (全)

西村 順八 (三)

本城 熊三郎 (全)

戸井 源吾 (全)

松久 祐馬 (全)

藤井 茂 (全)

木下 節三 (全)

鈴木 政治郎 (全)

吉武 安男 (全)

瀧澤 武藏 (三)

福井縣立病院
 札幌北一條四丁目
 東京芝神谷町
 靜岡縣駿東郡沼津町大字新町

東京市神田區駿河臺井上眼科病院
 東京市芝區田村十九富田三十郎方
 佐渡國羽茂村本郷
 群馬縣山田郡毛里田村大字只上
 大阪市北區絹笠町同生病院

五井 康平 (三)
 楠 正之 (全)
 松本文二 (全)
 山中房次郎 (全)
 河崎 正雄 (全)
 ◎ 河合 勝 (全)
 ◎ 勝部 方策 (三)
 ◎ 小暮 喜一 (全)
 ◎ 三上 儉次 (三)

會告

●自大正二年四月廿四日校外特別會員會費納付調書
 至全 五月廿五日

金額	期限	氏名
金參圓	自大正二年度三ヶ年分	千田 登君
金壹圓	大正二年度一ヶ年分	楠原 久君
金五圓	自大正元年度五ヶ年分	中川 幸庵君
金四圓	自明治四十二年度四ヶ年分	内海 友七君
以上		